

橋梁点検業務委託 特記仕様書

第 1 章 総則

(適用)

第 1 条 この特記仕様書は、小鹿野町橋梁点検業務委託に適用するものとし、この特記仕様書に定めのない事項については、埼玉県土木設計業務共通仕様書等によるものとする。

(業務の目的)

第 2 条 本業務は、小鹿野町が所管する橋長2m以上の橋梁について、安全で円滑な交通の確保、沿道や第三者への被害の防止を図るための橋梁に係る維持管理を効率的に行うために必要な情報を得ることを目的に実施し、損傷状況の把握、対策区分の判定、点検結果の記録を行うこととする。

(対象橋梁)

第 2 条 本業務の点検対象橋梁は、別表のとおりとする。

(管理技術者)

第 3 条 管理技術者は、本業務の技術上の管理を行うものとし、下記のいずれかの資格を有し、資格修得後に橋梁点検又は橋梁(道路橋)の詳細設計を履行した実績を有する者とする。

- 一 技術士(総合技術監理部門:鋼構造及びコンクリート)
- 二 技術士(建設部門:鋼構造及びコンクリート)
- 三 RCCM(鋼構造及びコンクリート)

(橋梁診断者)

第 4 条 本業務では、照査技術者に替えて、橋梁診断者を定めるものとし橋梁診断者は本業務における橋梁診断の責任者として下記のいずれかの資格を有し、資格修得後に橋梁点検を履行した実績を有する者とする。

- 一 技術士(総合技術監理部門: 鋼構造及びコンクリート)
- 二 技術士(建設部門: 鋼構造及びコンクリート)
- 三 RCCM(鋼構造及びコンクリート)

四 「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格登録簿」に下記の区分で登録された資格

- ・施設分野 : 当該業務の対象橋梁に対応する区分
- ・業 務 : 診断
- ・知識・技術を求める者 : 担当技術者

2 前項一から三の資格を有する橋梁診断者は、前条の管理技術者と兼務することができる。

(橋梁点検員等)

第 5 条 本業務を実施する者は、橋梁に関して十分な知識と実務経験を有するものとする。

2 点検に携わる人員の名称、必要な要件及び作業内容は次のとおりとする。

一 橋梁点検員

橋梁点検員は、点検作業班を統括し、安全管理について留意して、各作業員の行動を把握するとともに、点検補助員との連絡を密にして、点検調査を実施する。損傷状況の把握を行うのに必要な以下の能力と実務経験を有するものとする。

ア 橋梁に関する実務経験を有すること

イ 橋梁の設計、施工に関する基礎知識を有すること

ウ 橋梁点検に関する技術と実務経験を有すること

二 点検補助員

点検補助員は、橋梁点検員の指示により、点検作業の補助を行うほか、点検台の移動操作、点検車運転員及び交通整理員との連絡・調整を行う。

三 点検車運転員

点検車運転員は、橋梁点検員の指示に従い点検車の移動等を行う。

（業務計画書）

第6条 受注者は、契約後すみやかに橋梁点検や橋梁診断の実施体制を整え、本業務に必要な資料収集、現地における径間毎の点検方法・計画を検討し、業務計画書を監督員へ提出するものとする。

2 現地踏査の結果等により、業務計画の内容に変更が生じた場合は、変更業務計画書を提出するものとする。

3 管理技術者及び橋梁診断者は、第3条および第4条の要件を満たすことを明記する。

4 橋梁点検員及び点検補助員と併用して点検支援技術（ドローンやポールカメラなど）を使用する場合は、仕様及び使用方法、対象橋梁などを明記する。

（点検要領）

第7条 本業務は、「道路橋定期点検要領（令和6年3月 国土交通省道路局）」（以下「道路橋定期点検要領」という。）に基づき実施するものとする。

第2章 業務内容

（現地踏査）

第8条 橋梁点検に先立って現場踏査を行い、橋梁の変状（劣化、損傷等）程度を把握するほか、現地の交通状況、点検に伴う交通規制の方法等について現地の状況を調査記録するものとする。

2 排水枳あるいは支承周辺の土砂詰まりや不法占有者が橋下に存在して、点検作業に支障がある場合には、監督員と協議すること。

3 橋梁緒元が誤っていた場合、監督員に報告すること。

（橋梁点検）

第9条 本業務の実施に際しては、下記の事項について点検・診断及び資料の作成を行うこと。

一 近接目視点検

梯子、脚立または橋梁点検車等を利用し、橋梁の全ての部材に近接（部材を触れる程度）し目視点検を行うものとする。部材に変色や変状等が見られる場合は、点検ハンマーやノギス等の機器、用具も用いて点検するものとする。また、点検状況の写真は径間毎に撮影し、点検調書に添付すること。

2 コンクリート部材にうきがみられた場合、応急措置（叩き落とし及び鉄筋の防錆処理）を実施した後に損傷程度の評価を実施するものとする。なお、うきが広範囲におよび叩き落としが困難な場合は監督員と協議すること。

3 前項の対策作業に必要な経費等は設計変更の対象とする。

4 点検を実際に行う際に、架橋位置の地形、交通状況、交差物件、障害物等によって、実施が困難な場合には、監督員と協議するものとする。

5 橋梁点検員及び点検補助員と併用して点検支援技術（ドローンやポールカメラなど）を使用する場合は、第6条第4項に従い、業務計画書を作成するとともに、内容について監督員と協議するものとする。

6 溝橋（カルバート）については、土被り（天端から歩車道等の上面の厚さ）を測定すること。なお、土被り厚が測定の位置で異なる場合（車道部・歩道部等）は、最小値となる位置で測定すること。

7 防護柵の点検については、防護柵高さ（路面から柵面上端までの高さ）および間隔（柵間隔および部材と路面との間隔）も測定すること。

8 新技術利用については、「新技術利用のガイドライン（案）（平成31年2月国土交通省）」を参考に、監督員と協議すること。

（点検調書作成）

第10条 点検結果をもとに、「道路橋定期点検要領」に定める道路橋記録様式（書式①、②、③）を橋梁毎に作成するとともに、次の書式を当該様式に付加するものとする。なお、データの提出にあたっては、次のとおりとする。

◎付加書式：前回点検との比較（書式④）、調査結果（書式⑤）、現況状況写真（書式⑥）、一般図（書式⑦）、部材番号図（書式⑧）、損傷図（書式⑨）、損傷写真（書式⑩）

◎データ提出 書式①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩……Microsoft Excel、PDF

※橋梁毎に1つのファイルにまとめること（各書式をシートで分ける）。

2 損傷調書の作成にあたっては、「橋梁定期点検要領（令和6年7月 国土交通省道路局国道・技術課）」を参考として、調書作成を行うものとする。

3 点検によって緊急対応が必要と判断される損傷等を発見した場合は、直ちに監督員に報告するものとする。

4 橋梁の取り付け部分が擁壁構造になっている場合には、その擁壁部分の点検も合わせて実施すること。但し、記録様式は受注者が任意の様式を作成してよいものとする。

5 点検調書は「埼玉県道路メンテナンス会議」による検査を必要とするため、調書を作成後、監督員に調書のデータを提出し、メンテナンス会議からの修正等の指示があった場合は、調書を修正すること。

6 点検調書を「点検データ等登録システム」に登録するため、監督員が送付する「点検表一括登録用リスト」のデータに、必要事項を入力し、監督員に提出すること。

（報告書作成）

第11条 上記結果を点検調書として報告書として作成するが、過年度成果との整合性に留意して行うものとする。また、点検結果一覧表（書式⑥）を作成すること。

第 3 章 その他

（中間成果の報告）

第 12 条 監督員より中間成果の提出を求められた場合、速やかに提出するものとする。

（成果品）

第 13 条 本業務の成果品は、次のとおりとする。なお、成果品は全て小鹿野町の所有とし、小鹿野町の承諾なくして他への公表、貸与等使用してはならない。

- 1 点検報告書
- 2 現場写真集
- 3 電子データ
- 4 その他監督員が必要と認めたもの

（電子成果品の提出）

第 14 条 電子成果品は、データを格納した電子媒体(CD-R)により正・副各 1 部提出するものとし、電子成果品によらないものは、従来どおり紙で納品する。

（打合せ）

第 15 条 打合せは、以下の区切りにおいて行うものとし、回数は 3 回とする。

- 一 業務着手時
 - 二 業務中間報告時
 - 三 業務完了時
- 2 業務に関する打合せ記録の整理は、受注者が行うものとし、打合せ後速やかに提出するものとする。
- 3 業務着手時及び業務完了時には、原則、管理技術者が立ち会うこととする。

（他機関との協議）

第 16 条 橋梁点検を実施する際に、河川管理者、鉄道会社、公安委員会及び他の道路管理者との協議が必要となった場合は、監督員と協議したうえで、受託者が行うものとする。なお、協議に必要な経費は受託者の負担とする。

（貸与資料）

第 17 条 発注者が貸与する資料は、次のとおりとする。

- 一 橋梁台帳の写し
- 二 過去の橋梁点検報告書及び電子データ
- 三 その他業務履行上必要な発注者の所有する資料

（安全管理）

第 18 条 受注者は交通状況や橋下の状況に即した適切な保安施設を設けるなどして、安全管理に努めるものとする。

(沿道対応)

第 19 条 本業務中に、沿道住民及び道路利用者から苦情のあった場合には、受託者において、誠実、丁寧に対応するものとし、その結果を監督員に報告するものとする。

(疑義)

第 20 条 受託者は、業務の実施にあたり疑義が生じた場合には、監督員と協議するものとする。

(その他)

第 21 条 業務上知り得た事項を漏らしてはならない。

2 点検実施により、詳細調査が必要と想定される場合はその都度、必要な調査の内容と理由、及び調査費用の概算額を提示すること。

書式①:道路橋記錄樣式(樣式1) (Excel/A4) 【国提出書類】

様式1

橋梁名・所在地・管理者名等		橋梁名		所在地		起点側		終点側		施設ID	
(フリガナ)											
管理者名		路下条件		代替路の有無		自専道or一般道		緊急輸送道路		占用物件(名称)	

橋梁元

道路橋樑の健全性の診断 告示に基づく健全性の診断の区分		橋梁元		橋梁形式		橋梁年度		橋長		幅員		上部構造		下部構造		基礎構造			
※架設年度が不明の場合は「不明」と記入すること。																			
技術的な評価結果																			
定期点検実施年月日				定期点検者				想定する状況											
								豪雨・出水											
								その他											
橋(全体として)				写真番号				写真番号				写真番号				写真番号			
上部構造				写真番号				写真番号				写真番号				写真番号			
下部構造				写真番号				写真番号				写真番号				写真番号			
上下部接続部				写真番号				写真番号				写真番号				写真番号			
その他(フェール等)				写真番号				写真番号				写真番号				写真番号			
その他(伸縮装置)				写真番号				写真番号				写真番号				写真番号			
全景写真(起点側、終点側を記載すること)																			

橋梁元

起点側

終点側

このセルおのおのセルの上に全量写真の「画像ファイル」を挿入する。
 (コピーペーストはせず、「挿入」→「画像」で貼付け
 (セルの上に配置)して下さい)
 なお、画像ファイルは、JPG形式のものを採用して下さい。
 また、画像のオブジェクト名を「全量写真」として下さい。

書式②：道路橋記録様式(様式2) (Excel/A4) 【国提出書類】

様式2

状況写真(様式1)に対応する状態の記録)
○上部構造、下部構造、上下部接続部、その他について技術的な評価の根拠となる写真を添付すること。

構成要素		施設ID	0	定期点検実施年月日	0	定期点検者	0	0
想定する状況		構成要素の状態		想定する状況		構成要素の状態		構成要素の状態
写真番号 備考 (適宜、特記事項など)		径間		部材番号		写真番号 備考 (適宜、特記事項など)		部材番号
想定する状況		構成要素の状態		想定する状況		構成要素の状態		構成要素の状態

概ねこのセル枠内に全量写真の「画像ファイル」を挿入する。
「コピー＆ペースト」は使わず、「挿入」→「画像」で貼付け
「セルの上」に配置して下さい。
なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。
画像のオブジェクト名を「写真01(数字は半角)」として下さい。

概ねこのセル枠内に全量写真の「画像ファイル」を挿入する。
「コピー＆ペースト」は使わず、「挿入」→「画像」で貼付け
「セルの上」に配置して下さい。
なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。
画像のオブジェクト名を「写真02(数字は半角)」として下さい。

概ねこのセル枠内に全量写真の「画像ファイル」を挿入する。
「コピー＆ペースト」は使わず、「挿入」→「画像」で貼付け
「セルの上」に配置して下さい。
なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。
画像のオブジェクト名を「写真03(数字は半角)」として下さい。

概ねこのセル枠内に全量写真の「画像ファイル」を挿入する。
「コピー＆ペースト」は使わず、「挿入」→「画像」で貼付け
「セルの上」に配置して下さい。
なお、画像ファイルは、JPEG形式のものを使用して下さい。
画像のオブジェクト名を「写真04(数字は半角)」として下さい。

様式3

特定事象の有無、健全性の診断に関する所見									
該当部位	施設ID	0		定期点検実施年月日		健全性の診断の区分の前提	定期点検者	0	0
	特定事象の有無 (有もしくは無)								
	疲労	塩害	アルカリ 骨材反 応	防食機 能の低 下	劣損	その他	特記事項 (第三者被害の可能性に対する 応急措置の実施の有無等)		
上部構造					—				
下部構造	—			—					
上下部接続部		—	—		—				
その他(フェールセーフ)	—				—				
その他(伸縮装置)		—	—	—	—				
所見									
(適宜、所見を記入)									



書式④:前回点検との比較 (Excel/A4)

[illegible]

张旭

整理番号	009	橋梁名	○□1号橋	上部工構造形式	単線RC7桁	調査年	20**、11.02																						
総合所見	II		本橋は、1963年（昭和38年）竣工の2径間単線RC7桁橋である。竣工後59年が経過しており、以下の損傷が見受けられる。尚、主桁、床版には腐食被覆が施されており、打音検査を実施した。上部工・2径間目61主桁に鋼板のうきが見られる。主桁本体の損傷の進行が懸念されるため、予防保全の観点から「速やかに補修を行う必要がある。」と判断する。 主桁及び床版の鋼板に腐食、主桁側面にひびわれ、床版張り出し部に小規模な鉄筋露出が見られる。いずれの損傷も局部的な損傷であるため、「状況に応じて補修を行う必要がある。」と判断する。 下部工：A1橋台型壁にひびわれ、P1橋脚に流水によるすり減り、悪流物の堆積が見られる。いずれの損傷も局部的な損傷であるため、「状況に応じて補修を行う必要がある。」と判断する。 支床部：2径間目42制G1支床に腐食が見られる。経年劣化による損傷と推定されるが緊急性を要する損傷ではないため、「状況に応じて補修を行う必要がある。」と判断する。 橋面：コンタリート舗装にひびわれが見られ、伸縮装置に目地の陥落が見られる。いずれも広範囲な損傷であるため、予防保全の観点から「速やかに補修を行う必要がある。」と判断する。 防護欄橋長に腐食及び小規模な欠損、支柱部に鉄筋露出、添架物受け台に腐食見られる。いずれの損傷も局部的な損傷であるため、「状況に応じて補修を行う必要がある。」と判断する。																										
	損全度（橋単位）																												
損傷の項目等	鋼部材の損傷		コンクリート部材の損傷		その他の損傷		共通の損傷		対策区分判定	健全度（部材単位）																			
	①腐食	②亀裂	③ゆるみ・脱落	④破断	⑤防食機能の劣化	⑥ひびわれ	⑦剥離・鉄筋露出	⑧漏水・遊離石灰			⑨板け落ち	⑩床版ひびわれ	⑪うき	⑫蓋間の異常	⑬路面の凹凸	⑭舗装の異常	⑮文庫部の機能障害	⑯その他	⑰補修・補強材の損傷	⑱定着部の異常	⑲変色・劣化	⑳漏水・滞水	㉑異常な音・振動	㉒異常なたわみ	㉓変形・欠損	㉔土砂詰まり	㉕沈下・移動・傾斜	㉖洗堀	
主桁	01	-	-	-	-	c	a	a	-	-	a	a	-	-	-	-	c	a	a	a	a	a	a	a	-	-	B	I	
	02	-	-	-	-	b	a	a	-	-	a	a	-	-	-	-	c	a	a	a	a	a	a	a	-	-	B	I	
	03	-	-	-	-	c	a	a	-	-	a	a	-	-	-	-	c	a	a	a	a	a	a	a	-	-	B	I	
横桁	01	-	-	-	-	a	a	a	-	-	a	a	-	-	-	-	a	a	a	a	a	a	a	a	-	-	A	I	
	02	-	-	-	-	a	a	a	-	-	a	a	-	-	-	-	a	a	a	a	a	a	a	a	-	-	A	I	
	03	-	-	-	-	a	a	a	-	-	a	a	-	-	-	-	a	a	a	a	a	a	a	a	-	-	A	I	
床版	01	-	-	-	-	-	a	a	a	a	a	a	-	-	-	-	c	a	a	a	a	a	a	a	-	-	B	I	
下部工	01	-	-	-	-	c	a	a	-	-	a	-	-	-	-	-	a	a	a	a	a	a	a	a	-	-	B	I	
	02	-	-	-	-	-	a	a	a	-	-	a	-	-	-	e	a	a	a	a	a	a	a	a	-	-	B	I	
支床	0101	a	a	a	a	a	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	a	a	a	a	-	-	A	I
	0201	a	a	a	a	a	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	a	a	a	a	-	-	A	I
	0301	a	a	a	a	a	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	a	a	a	a	a	-	-	A	I

書式⑥：現況状況写真（Excel／A4）

現況状況写真			径間番号	1
フリガナ ワカサキ	路線名 県道□△線			
種別名 ○□1号橋	所在地 埼玉県□○市×△	管理者 埼玉県○県土整備事務所	橋梁コード	
写真番号 1	撮影年月日 20**・11・02	写真番号 2	撮影年月日 20**・11・02	
径間番号 1	モ	1	メ	
写真の説明 正面全景	起点側より撮影	側面全景		
				
写真番号 3	撮影年月日 20**・11・02	写真番号 4	撮影年月日 20**・11・02	
径間番号 1	メ	1	メ	
写真の説明 側面全景	左側が起点（1径間）	桁下全景		
				

状 況

写 真

真 影

○□1号機一般図

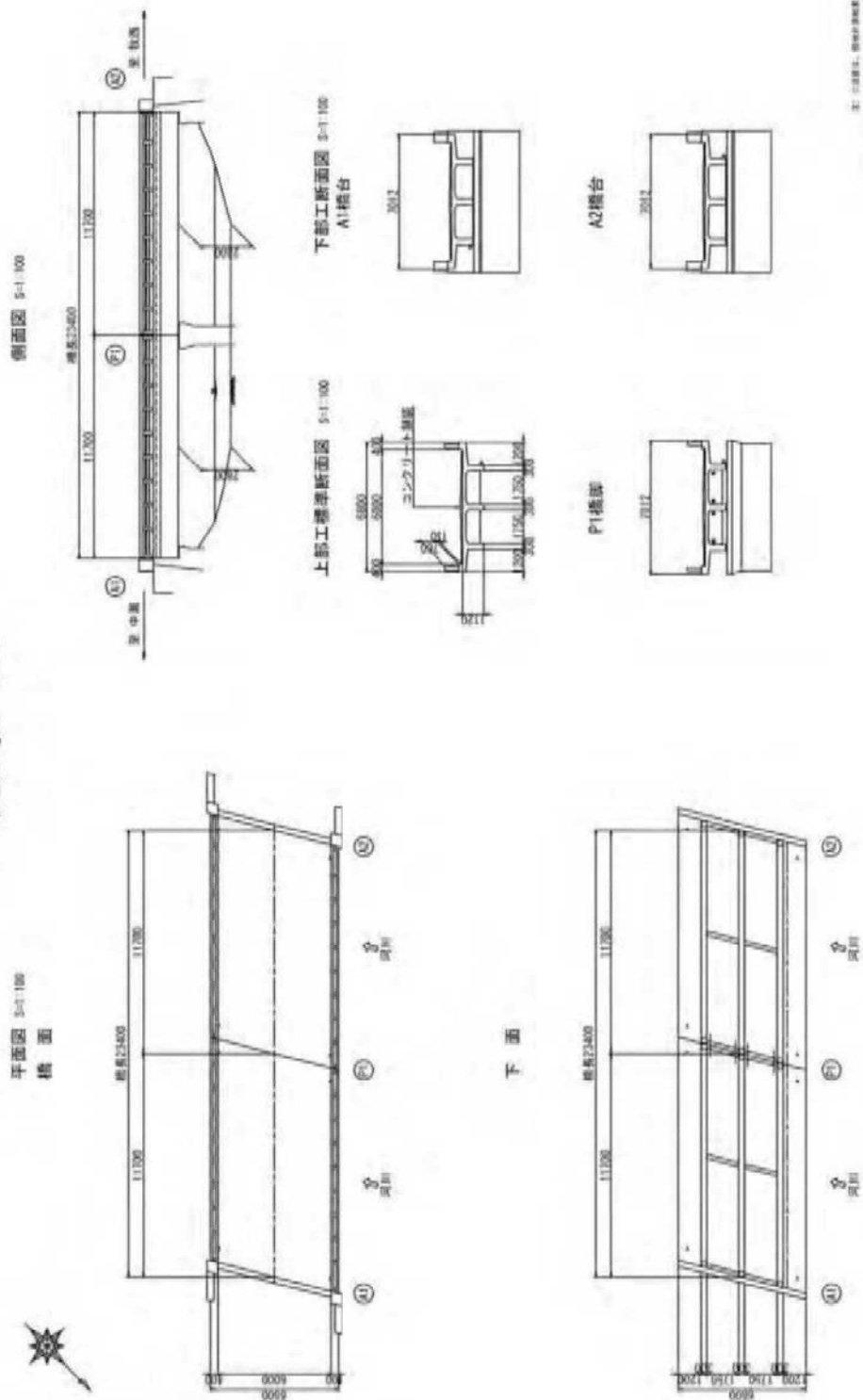
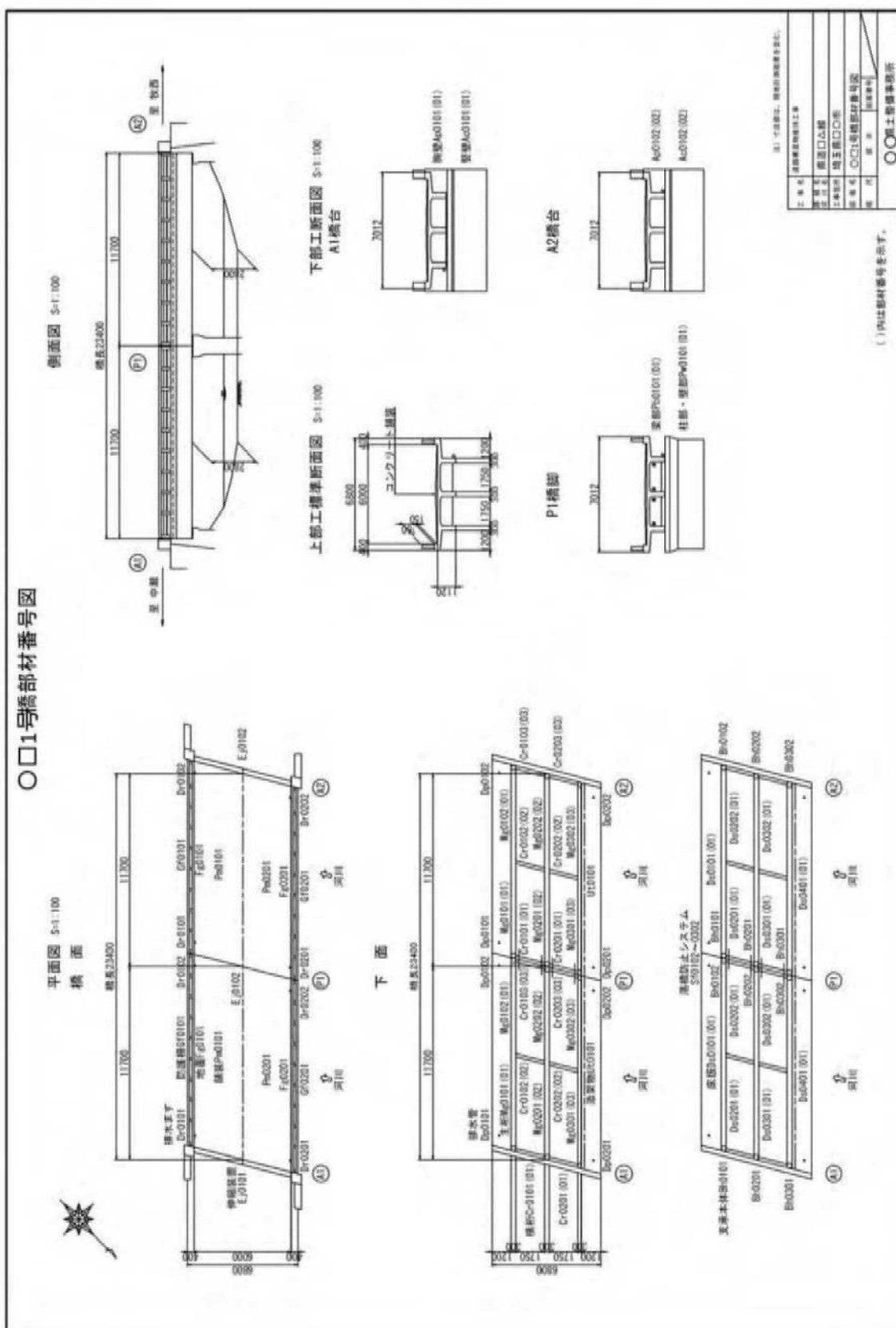
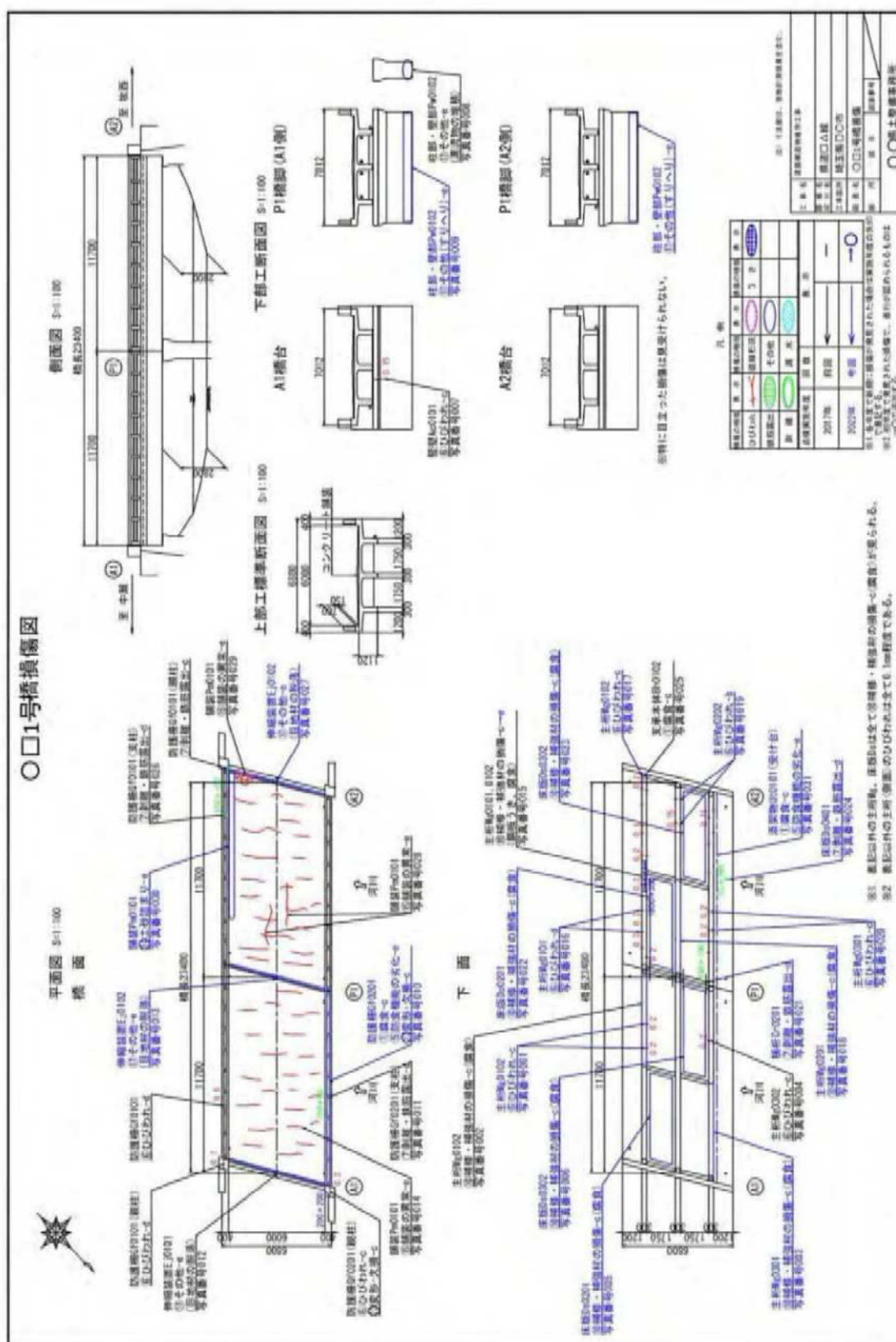


表 2 不同地区、不同性别、不同年龄组、不同职业、不同文化程度、不同经济状况的老年人对“孝”的理解

姓名	性别	年龄	职业	住址	联系电话	电子邮箱
王小明	男	25	学生	北京市朝阳区	13800138000	13800138000@qq.com





書式⑩: 損傷写真 (Excel/A4)

損傷写真		経間番号		1					
フリガナマわさびゴウ	路線名	県道口△線							
橋梁名	所在地		埼玉県口〇市×△		管理者	埼玉県〇〇県土整備事務所	橋梁コード		
写真番号	1	経間番号	1	写真番号	2	経間番号	1	撮影年月日	20**/11/02
部材名	主桁	要素番号	0102	部材名	主桁	要素番号	0102	メ	モ
損傷の種類	ひびわれ	損傷程度	c	損傷の種類	補修・補強材の損傷	損傷程度	c	G1主桁補修材に腐食が見られる。	
									
写真番号	3	経間番号	1	写真番号	4	経間番号	0302	撮影年月日	20**/11/02
部材名	主桁	要素番号	0301	部材名	主桁	要素番号	0302	メ	モ
損傷の種類	補修・補強材の損傷	損傷程度	c	損傷の種類	ひびわれ	損傷程度	c	G3主桁側面にひびわれが見られる。 ひびわれ幅：0.2mm	
									

損傷写真

書式⑪:点検結果一覧表 (Excel/A3)

[illegible]

別表

1	水道橋	町道41号線
2	花園第3橋	町道43号線
3	北扶桑ヶ原橋	町道52号線
4	寿鹿谷第1橋	町道56号線
5	小判沢橋	町道57号線
6	高田第1橋	町道59号線
7	高田第2橋	町道59号線
8	籠関第1橋	町道85号線
9	上三都橋第2橋	町道89号線
10	北町橋	町道89号線
11	籠関第2橋	町道90号線
12	籠関第3橋	町道91号線
13	石田第1橋	町道188号線
14	中林橋	町道106号線
15	石田第2橋	町道107号線
16	早道場橋	町道190号線
17	田の入橋	町道162号線
18	寺下橋	町道164号線
19	厚生橋	町道215号線
20	堂の下橋	町道236号線
21	岩殿橋	町道702号線
22	岩殿沢第2橋	町道702号線
23	強矢橋	町道475号線
24	大駄橋	町道467号線
25	遠嶽橋	町道468号線
26	天狗岩橋	町道416号線
27	朽屋橋	町道432号線
28	コモカイ橋	町道273号線
29	綾橋	町道178号線
30	仲原橋	町道231号線
31	八重川橋	町道252号線
32	落合橋	町道267号線
33	小菅橋	町道431号線
34	新井橋	町道434号線

35	関口橋	町道234号線
36	西平橋	町道168号線
37	強矢下橋	町道476号線
38	中郷橋	町道165号線
39	大胡桃橋	町道両神 9 号線
40	坂戸橋	町道両神53号線
41	大堤橋	町道両神21号線
42	常木橋	町道両神 1123 号線